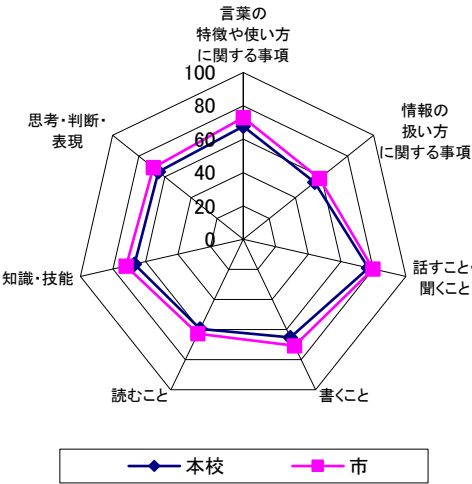


宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.7	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	54.8	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	77.0	79.8	75.9
	書くこと	65.2	70.7	71.7
	読むこと	59.6	62.8	62.5
観点別	知識・技能	66.8	72.0	74.4
	思考・判断・表現	65.0	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字を読む設問では、平均正答率93.7%と市の平均を3.0ポイント上回った。 ●第5学年に配当されている漢字を書く設問では、平均正答率64.5%で市の平均を7.4ポイント下回った。 ●「言葉の学習」の設問の中でも特に三字の熟語の構成について答える問題では、平均正答率50.8%で、市の平均を27.3ポイントと大きく下回り、課題が見られる。	・新出漢字だけではなく、既出の漢字についても取り上げた漢字練習及び漢字小テストを行うことで、繰り返し指導し、漢字の定着を図る。 ・三字熟語の構成について課題が見られたので、読み書きだけでなく、漢字一字一字の意味も併せて押さえる必要がある。どのような意味の漢字の組み合わせで、どのような意味を持つ熟語になるのかを授業で取り上げて、熟語の構成という考え方に慣れさせる。
情報の扱い方に関する事項	●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単にまとめて書く問題では、正答率54.8%で、市の平均を3.7ポイント下回った。	・複数の情報の関係を読み取ることに課題がある。同一の内容を議題として扱っている複数の文章や、文章の内容に関係のあるグラフ・表を見比べるという経験を積ませる。
話すこと・聞くこと	○話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉えているかを問う問題では、正答率90.5%と、市の平均を1.5ポイント上回った。 ●互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、考えをまとめる問題では、正答率67.5%で市の平均を6.2ポイント下回った。	・話の内容を明確にするための工夫についてはよく理解できているので、授業で話し合いを行う際には立場を明確にするようにし、話の要点を簡潔にまとめる活動を取り入れる。
書くこと	●指定された長さで文章を書く問題では、正答率58.7%で市の平均を8.5ポイント下回った。 ●段落に役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、正答率55.0%と市の平均を10.0ポイント下回った。	・授業内のまとめや振り返りに字数制限をかける等、指定された長さで書く機会を設け、書く力の定着を図る。 ・教材文内の段落について、段落数だけでなく、何故そこで段落が分かれるのかについて触れたり、自力で段落分けを行う練習をさせたりし、段落という概念の習得を確実なものとする。
読むこと	○登場人物の様子について、描写を基に捉えているかを問う問題では、正答率82.5%と市の平均を3.1ポイント上回った。 ●物語文の登場人物の心情を捉える問題や、説明文の文章の内容を捉える問題では、共に市の平均を9ポイント程下回っており、課題が見られる。	・今まで同様、日頃から本に親しみ、読書への関心を高められるよう、図書館利用の奨励や朝の読書タイムの活用を図る。心情や文章の内容を捉えることに課題が見られたため、読書をただで終わらせず、端的に本の要点をまとめる、感想を一言書くなど、本の内容について振り返る機会を設ける。また、文学教材については、直接的な言葉では描写されていない部分からも想像力を働かせて心情を読み取ることができるよう、読解の指導を進める。